

住まい・まちづくり学習から始める持続可能な社会づくりの実践的プログラム開発

研究目的

21世紀の持続可能な社会づくりには、生活の基盤である住生活が安定的に営まれることが必須です。持続可能な社会における「住まい・住生活・住環境」づくりは、スクラップアンドビルドではなく現在あるものを使いこなし、再生しながら、構築していくことが求められます。本研究は、子どもから大人まで地域住民を対象に「住まい・まちづくり学習」による持続可能な社会づくりのための住まい・住生活の継承、再生、再構築していく営みを作る学習機会の創出とそのための実践的プログラムづくりを目的としています。

■調査対象となる地域の住まい・まちづくり活動例

- ①街並み・民家の保存再生と住まい・まちづくり学習
- ②地域のお祭りに見る住まい・まちづくり学習
- ③産業遺産による地域の再生とまちづくり学習
- ④町家再生における住まい学習
- ⑤学校の保存再生と建築・まちづくり学習



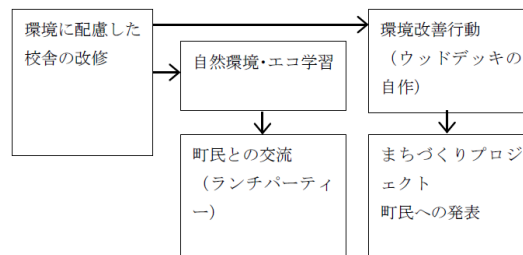
写真 歴史的街並み景観の再生による地域活性化事例調査
(富山県八尾市)

研究概要

地域の住まいまちづくり活動における「再生・継承」に関わる学習の多面的把握を行うため実態調査、また、学校教育での取り組みについても「再生・継承」に関わる学習の取り組みの実態、学習内容の変化について調査を行います。その上で「再生・継承」を横断的に盛り込んだ住まい・まちづくり学習のプログラム開発を行います。

今年度は、各研究機関ごとに地域の住まいまちづくり学習の実態調査を行いつつ、住まいまちづくりに取り組む地域への現地調査などを実施しました。

■黒松内中学校における環境教育と地域の関わり調査



研究の成果

H23年度は校舎のエコ改修事業と環境教育の取り組みを平成18年から行っている黒松内中学校において、環境教育が子どもたちや地域住民との間でどのような関わりで行われてきたかについて調査を行いました。そのほか歴史的街並み景観による地域再生事例の調査を行いました。今後さらに道内を中心に地域の住まい・まちづくりが地域の再生につながっている事例の調査を行う予定です。